

温泉と健康



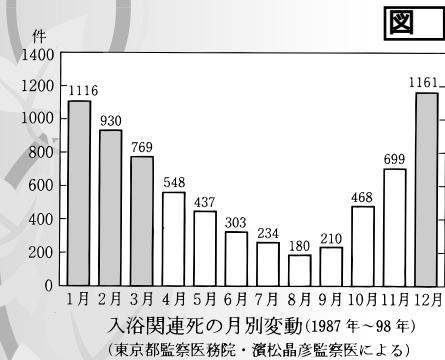
第4回 本当は怖いことも
ある入浴と温泉

三原 純(奈古谷)
花の丘診療所長(麻酔科)、温泉
気候物理医学会会員、温泉療法医

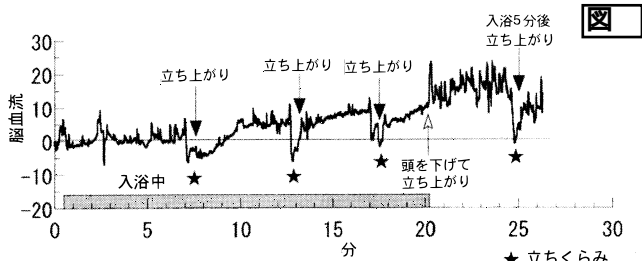
入浴中の急死

日本人は入浴好きで、平均週に五回入り、入浴に二十分を要し、浴槽には十分入っているとの調査があります。この短い入浴中に年間約一万四千人が亡くなっているとの推定されています。

平成十五年で見ると交通事故による死亡一万九百十三人より多く、全死者数の一・四%、急死者数の一六%にあたります。六十五歳以上の高齢者に多く、十二月～三月の冬季に集中している(図)ことから血圧



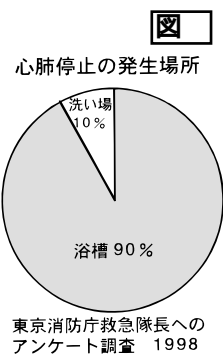
変動による心筋梗塞が脳卒中が死因と考えられてきました。最近、これをほぼ明らかにする研究が発表されました。被験者は健康な男性九人(平均二十九歳)で、四十一度入浴中、座位から立ち上がった時に立ちくらみ症状が出た四人では脳血流が大きく低下していたとされています。(図)。このとき血圧も低下しています。



このことから、入浴死の原因として脳血流低下による立ちくらみが失神を引き起こし、そのまま浴槽内に溺没するものと考えられます。入浴中は温熱効果により血管が拡張するとともに、静水圧により血管が圧迫されています。急に立ち上がると拡張した

心臓のポンプ作用を強くして脳へ十分な血液を供給しようとする。高齢者や飲酒時はこの反応が低下するため脳血流が低下しやすくなります。またこの研究では、頭を下げた姿勢でゆっくり立ち上がると脳血流の低下も少なく立ちくらみは起こらなかったとされています。

心肺停止の九〇%は浴槽で起き(図)、目撃者の救助がなかったためと考えられます。温泉でも一人での入浴や個室風呂は注意が必要です。

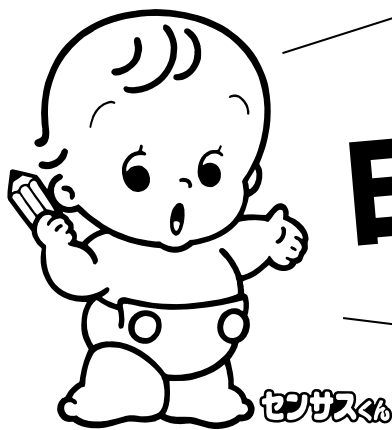


レジオネラ肺炎
レジオネラ菌は湿った土や池などの淡水に住みアメリバの中で増えます。温かいところが好きなので浴槽などで増殖し、霧状の水滴とともに吸い込むと三～七日の潜伏期で重症の肺炎を起こします。循環湯ではフィルターで繁殖しやすく、そのような入浴施設では平成十二年に静岡県で発病二十三人死亡二人、平成十四年には宮崎県で発病二百九十五人死亡七人の集団発生が

【参考図書】
堀井雅恵 日本温泉気候物理医学会誌 68 3、2005
高間典明 新薬と臨床 53 12、2004

問合せ 温泉健康都市推進室
電話 055 948 1413

10月1日 国勢調査

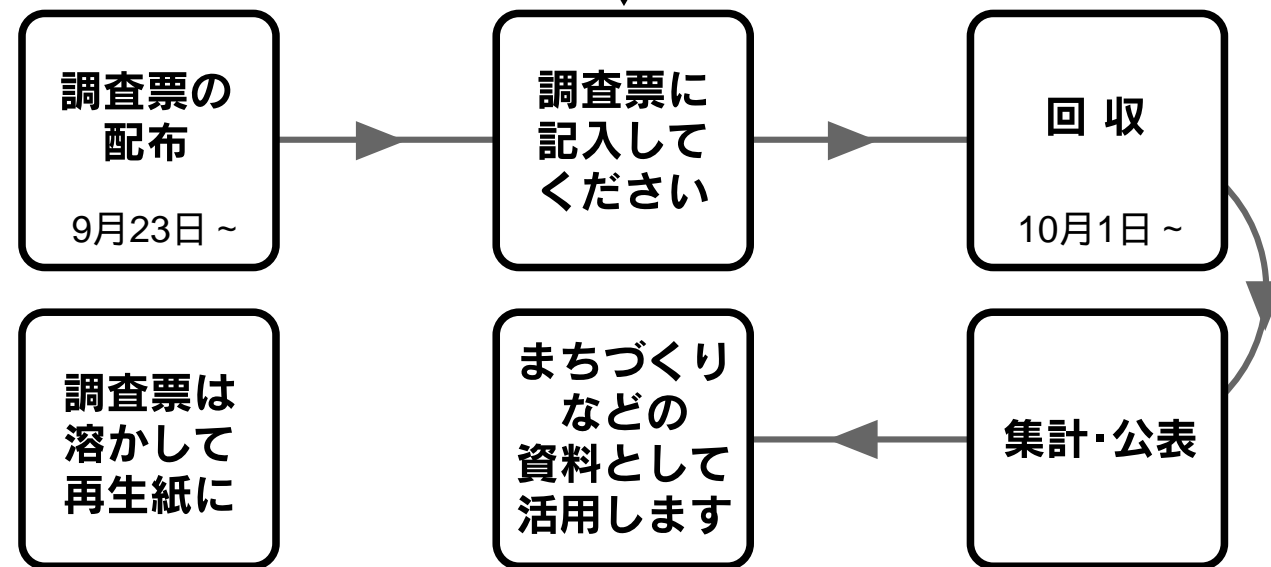


あなたの調査票には 日本の大切な未来が つまっています。

あなたとこのまちの21世紀のために10月1日、国勢調査を実施します。
5年に1度、日本に住んでいるすべての人を対象に行う大規模な統計調査です。

9月下旬から、国勢調査員が皆さんのお宅に調査票を配りにお伺いします。

調査票がお手元に届いたら、10月1日現在の皆さんの状況を記入してください。記入していただく項目は、男女の別、出生の年月、就業状態、通勤・通学地、住居の種類など17項目です。記入していただいた内容は、統計を作成するためだけに使い、調査票は集計後に溶かして処分します。調査票に書かれたことが他にもれることは絶対にありませんので、ご安心ください。
10月上旬までに、再び国勢調査員が調査票を受け取りに伺います。



2005 国勢調査
平成17年10月1日(土)
9月下旬から国勢調査員がおうかがいいたします。

問合せ 総合政策課 電話 055-948-1413